

令和6年 7月 2日

金沢大学教職員
環日本海域環境研究センター外来研究員
環日本海域環境研究センター連携研究員 各位

金沢大学環日本海域環境研究センター長
長 尾 誠 也
[公印省略]

「日本海域研究」第56号の原稿募集について（通知）

このことについて、下記のとおり募集します。

記

1. 原稿内容

一般公開刊行物に未公開のもので、その内容は日本海および日本海周辺地域（以下「日本海域」）の自然、人文、社会科学研究に関するものとする。

- （1）論文：日本海域における独自の研究成果をまとめたもの。
- （2）総説：日本海域における研究成果を分析・検討し、研究史や研究の現状、将来の展望などについてまとめたもの。
- （3）短報（要約・抄訳を含む）
 - （A）論文の内容となりうる情報を含む調査研究成果の速報。
 - （B）総説の内容となりうる情報を含む研究動向・研究展望の紹介や報告。
 - （C）新しい研究手法の提案など。
- （4）資料：日本海域に関係のある調査、記録、統計などにもとづいて、資料的に価値のある情報をまとめたもの。
- （5）報告：補助金による事業の結果と経過、イベントなどの報告。
- （6）翻訳：日本海域にかかる外国語論文、総説、短報などの日本語訳。

2. 投稿資格

金沢大学教職員、環日本海域環境研究センター外来研究員、同連携研究員、博士研究員を原則とする。複数の著者による投稿の場合には、著者のうち少なくとも1人がこれらのいずれかに該当すること。ただし、編集委員会がその内容を適当と認めた場合にはこれ以外の投稿も受け付ける。なお、1人あたりの投稿原稿数は、単著で1人2編、共著で1人3編（単著を含む）までとする。

3. 発行予定日

令和7年3月下旬.

4. 投稿上の注意

「日本海域研究」投稿規定（平成25年4月9日改訂）を参照. ※別紙も参照のこと.

5. 原稿提出先および投稿に関する相談窓口

金沢大学環日本海域環境研究センター長室 気付
環日本海域環境研究センター「日本海域研究」編集委員会 宛

6. 投稿〆切

令和6年9月27日（金）午後5時 ※必着

7. 原稿の受付と受理・掲載

投稿原稿には受付日が付され、論文、総説、短報、資料、翻訳は、編集委員会が指定する査読者による査読結果にもとづいて掲載の可否が編集委員会により決定される。報告は編集委員会により掲載の可否が決定される。掲載順序は編集委員会において決定する。なお、受理の場合でも予算の都合等で分割掲載あるいは次号送りなどの措置をとることがある。

8. 編集委員会および担当事務

編集委員長	長尾誠也（環日本海域環境研究センター長）
編集主幹	塚脇真二（環日本海域環境研究センター）
編集委員	井上睦夫（環日本海域環境研究センター）
	宇根義己（人間社会研究域人文学系）
	上田長生（人間社会研究域国際学系）
	小林信介（人間社会研究域経済学経営学系）
	古泉達矢（人間社会研究域国際学系）
	松木 篤（環日本海域環境研究センター）
	関口俊男（環日本海域環境研究センター）

担当事務 金沢大学環日本海域環境研究センター長室 松田彩子
電話：076-234-6961, FAX：076-234-6843（環日センター支援係）
Email：pattykiku@staff.kanazawa-u.ac.jp

投稿にあたってとくにご留意いただきたいこと

「日本海域研究」は第45号から投稿規定が改訂されています。ご投稿にあたってはこの新しい投稿規定に沿って投稿原稿を作成いただきますようお願いいたします。これまでは、規定に多少反する原稿も受け付け、編集委員会で原稿を修正してまいりましたが、この作業に多大の時間をとられてしまうため、規定に反する原稿については受け付けず責任著者に差し戻しますことにいたしました（細則5）。再提出が投稿〆切日を過ぎていた場合には次号送りとなります。よろしくご理解のほどお願い申し上げます。

とくにご留意いただきたいのは以下です。

1. 投稿原稿は電子ファイルでのみ受け付けます。先頭ページ、英文（和文）要旨、本文、文献リスト、図表類などのすべてをまとめて、原則としてひとつのPDFファイルで提出してください（投稿要領4（2））。これに対応できないときには編集委員会までお問い合わせください。
2. 日本語原稿の場合には表題、著者名、所属、キーワード、図表などのキャプションを英語で必ず併記してください。また、日本語原稿の場合には英文要旨を付けてください（投稿要領3（2）（A）～（G））。
3. 投稿原稿のサイズや書式、フォントにご留意ください（投稿要領5（1））。上下左右の余白の幅や、1ページあたりの行数、1行あたりの文字数の目安は投稿要領をごらんください。行間がつまりすぎているものや、上下左右の余白があまりにも狭いものが見うけられ、これでは原稿内容の確認や査読の作業に支障があります。見出しや句読点の書式についても規定をお守りください（投稿要領5（5）（7））。
4. 本文中に文献を引用する場合、ならびに文献リストの書式は規定どおりに書いてください（投稿要領5（12）～（14））。また、文末注には文献を記述しないでください（投稿要領5（11））。
5. 投稿原稿での図や表のとりあつかいは規定どおりをお願いします（投稿要領5（16）～（19））。図や写真は鮮明なものをお送りください。
6. 投稿にあたっては原稿のテキスト部分（表題、著者、要旨、本文など）とイメージ部分（図、写真、複雑な表など）は必ず分けてください（投稿要領4，8）。ワープロファイルに図を貼り付け、その上から文字・記号などを記入したものと見受けられますがこれはおやめください。
7. 原稿受付後の再投稿はおひかえください。原稿受付〆切以後の再投稿の場合は次号送りいたします（細則5）。
8. 第42号以降の本誌は当センターのウェブサイトからダウンロードいただけます。
http://www.ki-net.kanazawa-u.ac.jp/result/research_sea/